

様式 4

平成 25 年度 第 2 回・3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取商業高等学校

校長 野崎 淳介

評 価 日	平成 26 年 3 月 4 日 (火)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の具体項目による経過・達成状況の評価がに全般的に上がっている。 遅刻者の大幅な減少は学年ごとの工夫した取組の成果であるようだが、どのような取組を行ったのか。 昨年度、一昨年度に比べ相談室・保健室の利用者数が大幅に減少している。教育相談が必要な生徒や傷病等の生徒は減少しているのか。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥商デパートや鳥商デパート成果発表会、卒業式等、生徒の活動を直接見る機会が多くあった。また、夏休み以降はホームページの更新が毎日のようにあり、学校の様子がよくわかった。 <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国との姉妹校交流事業は、交流校の都合により 2 年連続で来校中止となったが、県の交流している江原道の訪問団来校・ホームステイを受け入れることができた。 本校教育の集大成である鳥商デパートを中心に、体験活動をとおして、概ね達成できている。 <p>3. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善方策に具体的な取組の記入（数値目標等）があり、今後も生徒の進路実現 100% を目指して頑張ってもらいたい。 	<p>新聞部が県立広島商業高校訪問取材報告を行い（全校集会）、生徒に「伝統」について訴えたことにより、学校生活に取り組む姿勢が一層向上した。</p> <p>生徒会執行部・運動部を中心にした朝の挨拶運動、遅刻カードの活用（遅刻者が職員室で学年主任から遅刻カードを受け取る際に指導を受ける）、学期に遅刻 3 回を超えた時点での学年団の指導等が効果的であった。</p> <p>昨年までの相談室利用者数の中には、進学のための小論文指導等で利用した生徒が多く含まれていた。今年度は教育相談が必要な生徒のみが利用している（本年度も毎週水曜日に S C が来校、予約を受けて相談を受けている）。健康教育の取組の結果、遅刻・欠席者が減少し、保健室利用が減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨夏にホームページのシステムを変更したために更新方法が簡単になり、鳥商教育の積極的な情報発信が可能となった。 次年度についても、相手校に姉妹校交流を働きかけていく。 県外高校との商業教育フォーラム（新規事業）、文科省研究指定事業（2 年間延長）による授業改善等に取り組んでいきたい。 	